

心臓カテーテル検査から包括的心臓リハビリテーションへの包括的アプローチについて

¹市立福知山市民病院

道家 智恵¹、林 宏憲¹、田中 宏典¹、井上 悟志¹、田中 貴章¹、松永 晋作¹、阪本 貴¹、西尾 学¹

【目的】当院は2007年に循環器科医メンバー構成が新たになり、心臓カテーテル(以下心カテ)検査・冠動脈形成術の件数は約3倍になった。2009年度には心疾患に対する up-stream 治療を目的に京都北部では初の包括的心臓リハビリテーション(Comprehensive Cardiac Rehabilitation 以下 CCR と略)を新規開設するに至った。CCR は医師と多職種が関わるチーム医療である。看護師の立場から心カテから CCR へ包括的アプローチの取り組みについて報告する。【方法】CCR 専任看護師は心カテ室業務を兼任し、エントリー時には CCR オリエンテーションを含めた退院指導を行った。冠危険因子管理に対し生活習慣是正が必要と判断した場合には、各専門分野のコメディカル介入の調節を医師と連携して行った。また外来通院型 CCR への導入を行った。【結果】CCR と心カテ業務を兼任することで、冠動脈病変の把握や問題点などの理解が容易になり医師や多職種との連携をとることが可能となった。また退院後の外来通院型 CCR への導入が円滑になった。【結論】心カテ業務に対するコメディカルの業務のひとつに、door to balloon time 短縮を含め、医師業務のサポートをいかにするかということがあった。しかし特に虚血性心疾患に対するリスク管理および運動療法を含む包括的アプローチは、その原因に介入する up-stream 治療であり、医師と多職種がまさに協力し、PCI と CCR 双方のバランスを保った診療が必要とされる。今回当院では CCR 新規開設にあたり、医師と連携をとりながら包括的な診療体制を取ることが可能となったと考えられる。